令和4年度 学校評価アンケート結果(児童)

(R4.12実施 有効n=357)

1-1 学校は楽しい。

評価	А	В	С	D	無回答
人数	208	114	20	13	2
構成比	58.3%	31.9%	5.6%	3.6%	0.6%
昨対比	-12%	9%	2%	1%	1%

☆コメント

肯定評価内 (A→B) への変動が見られています。コロナ禍3年目,今年度は夏休み明けと秋休み明けのピークが 学校の活動に若干制限を与えた影響かもしれません。

1-2 自分のクラスは仲の良いクラスである。

評価	Α	В	С	D	無回答
人数	203	122	25	5	2
構成比	56.9%	34.2%	7.0%	1.4%	0.6%
昨対比	-5%	-1%	4%	1%	1%

☆コメント

年間を通して学級づくりを行っていく過程で、例年に比べコロナ関連の欠席児童が絶えずあった影響はありました。 それでも肯定的評価90%は維持しています。

1-3 自分の良いところをたくさん知っている。

評価	Α	В	С	D	無回答
人数	116	157	61	18	5
構成比	32.5%	44.0%	17.1%	5.0%	1.4%
昨対比	-3%	0%	2%	0%	1%

☆コメント

若干の変動はありますが、本校の特長でもあります。 仙台市生活状況調査でも市平均値より自己評価が高い 結果が出ております。

1-4 学校の勉強は分かる。

評価	Α	В	С	D	無回答
人数	197	118	26	7	9
構成比	55.2%	33.1%	7.3%	2.0%	2.5%
昨対比	-11%	6%	1%	1%	3%

☆コメント

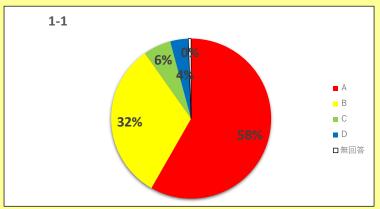
肯定評価内(A→B)への変動が見られています。コロナ ICT導入により既存の授業が大きく転換されようとしていま す。「誰ひとり取り残さない授業」を模索中です。

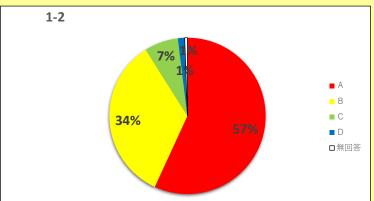
1-5 家庭学習をやっている。

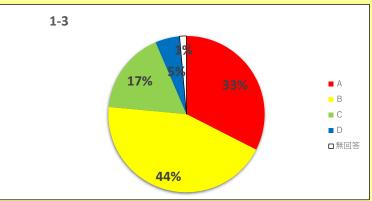
評価	Α	В	С	D	無回答
人数	246	64	24	12	11
構成比	68.9%	17.9%	6.7%	3.4%	3.1%
昨対比	-4%	-1%	2%	0%	3%

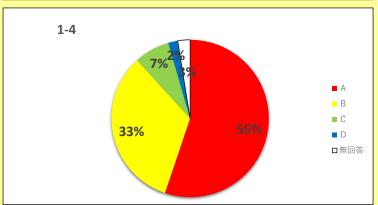
☆コメント

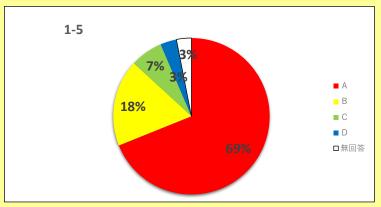
(学年×10+10分)を学校での家庭学習時間と位置づけて全校で声がけをし、取り組んでいます。高学年は宿題から自主学習への移行を試みています。











1-6 学校のきまりを守っている。

評価	Α	В	С	D	無回答
人数	184	145	16	2	10
構成比	51.5%	40.6%	4.5%	0.6%	2.8%
昨対比	2%	-5%	0%	0%	3%

☆コメント

肯定的評価90%を堅持しています。きまりを守れる学校は 自分たちも安心して学び遊べる学校であるということを声 がけしています。きまりは年2回教員間で再検討しています。

1-7 前の日に学習用具の準備をしている。

評価	Α	В	С	D	無回答
人数	205	104	26	11	11
構成比	57.4%	29.1%	7.3%	3.1%	3.1%
昨対比	-5%	1%	2%	-1%	3%

☆コメント

肯定的評価から否定的評価へ若干の変動があります。 「自分のものは自分で用意する」生活習慣を身につけ させたいものです。

1-8 たくさん体を動かしている(運動や遊び)。

評価	Α	В	С	D	無回答
人数	192	89	52	14	10
構成比	53.8%	24.9%	14.6%	3.9%	2.8%
昨対比	-13%	3%	6%	1%	3%

☆コメント

肯定的評価から否定的評価へ大きく変動しています。 コロナ関連の欠席児童が増え、不要不急な外出を避け ざるを得なかった影響が出たものと思われます。

1-9 家の人とよく話をする。

評価	Α	В	С	D	無回答
人数	237	78	22	9	11
構成比	66.4%	21.8%	6.2%	2.5%	3.1%
昨対比	-7%	1%	2%	1%	3%

☆コメント

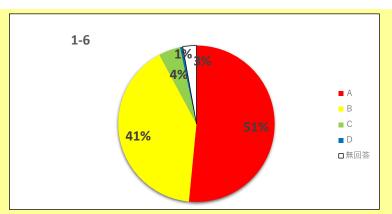
肯定的評価から否定的評価へ若干の変動がありますが、 引き続きご家庭でのご協力をお願いします。

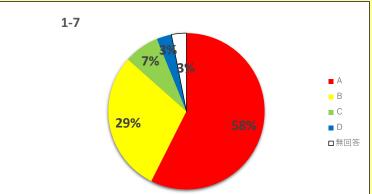
1-10 担任の先生は、自分の話を聞いてくれる。

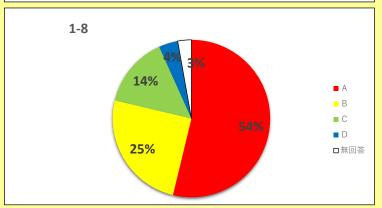
評価	Α	В	С	D	無回答
人数	241	82	18	5	11
構成比	67.5%	23.0%	5.0%	1.4%	3.1%
昨対比	-13%	7%	2%	1%	3%

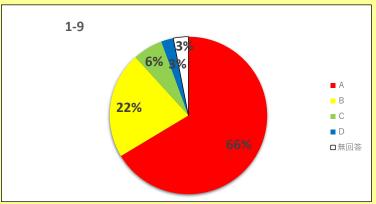
☆コメント

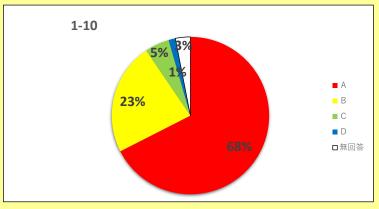
肯定的評価から否定的評価へ若干の変動があります。背景がどうあれ、この点を教職員が真摯に捉えて、子供たちにとって安心して相談できる存在であるよう努めます。











1-11 クロームブックを使った授業で学習がよく分かるように なった。

評価	Α	В	С	D	無回答
人数	232	93	13	8	11
構成比	65.0%	26.1%	3.6%	2.2%	3.1%
昨対比					

☆コメント

1人1台端末は既存の学習形態の転換点になっています。 ICT利用の利点と負の点を見極めています。「分かった 気になる」「やった気になる」に注意が必要と考えます。

2-1 自分はあいさつができるようになった。

評価	Α	В	С	D	無回答
人数	234	84	17	9	13
構成比	65.5%	23.5%	4.8%	2.5%	3.6%
昨対比	-13%	7%	1%	2%	4%

☆コメント

肯定的評価内ですがA→Bへの変動が見られます。 昨年の大幅なあいさつへの取組の改善の反動が 全項目に渡って出ている印象があります。

2-2 自分のあいさつは合格点である。

評価	А	В	С	D	無回答
人数	114	168	45	16	14
構成比	31.9%	47.1%	12.6%	4.5%	3.9%
昨対比	-7%	-1%	1%	2%	4%

☆コメント

肯定的評価内ですがA→Bへの変動が見られます。 目標値が上がっていることによる影響がでているの かもしれません。

2-3 学校全体であいさつがふえた。

評価	Α	В	С	D	無回答
人数	210	105	18	10	14
構成比	58.8%	29.4%	5.0%	2.8%	3.9%
昨対比	-15%	9%	1%	2%	4%

☆コメント

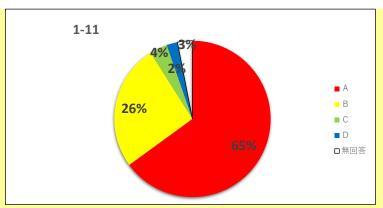
2-1と同じ要因ではないかと分析しています。 新規の取組を創意工夫しながら児童とともに進めて 参ります。

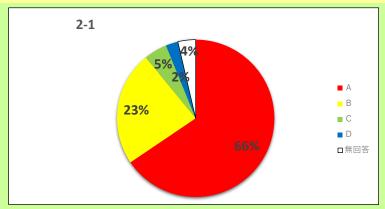
2-4 学校全体のあいさつは合格点である。

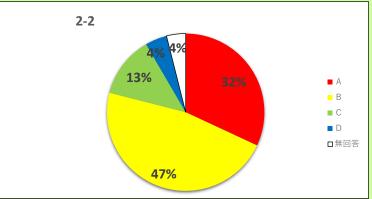
評価	А	В	С	D	無回答
人数	136	166	31	11	13
構成比	38.1%	46.5%	8.7%	3.1%	3.6%
昨対比	-5%	-1%	1%	1%	4%

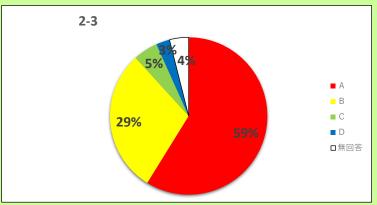
☆コメント

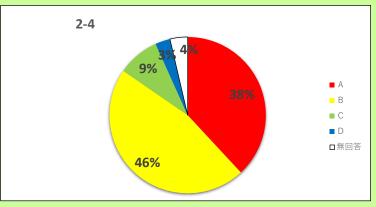
2-2と同じ要因ではないかと分析しています。 新規の取組を創意工夫しながら児童とともに進めて 参ります。











2-5 ともだちにあいさつができるようになった。

評価	А	В	С	D	無回答
人数	238	89	12	7	11
構成比	66.7%	24.9%	3.4%	2.0%	3.1%
昨対比	-16%	10%	2%	1%	3%

☆コメント

肯定的評価内ですがA→Bへの変動が見られます。 95%復帰を目標に工夫を重ねながら取り組んで参り ます。

2-6 先生にあいさつができるようになった。

評価	А	В	С	D	無回答
人数	221	95	22	8	11
構成比	61.9%	26.6%	6.2%	2.2%	3.1%
昨対比	-9%	3%	2%	1%	3%

☆コメント

肯定的評価内ですがA→Bへの変動が見られます。 90%を下回らないように取り組んで参ります。 教職員からもあいさつを仕掛けて参ります。

2-7 おうちの人にあいさつができるようになった。

評価	Α	В	С	D	無回答
人数	240	70	15	16	16
構成比	67.2%	19.6%	4.2%	4.5%	4.5%
昨対比	-3%	-2%	-1%	2%	4%

☆コメント

当たり前の関係でも、あいさつに満ちたあふれた家庭は素敵です。日頃よりご家庭で挨拶が浸透している様子に 感謝申し上げます。

2-8 ちいきの人や学校のお客様にあいさつができるように なった。

評価	Α	В	С	D	無回答
人数	167	120	41	15	14
構成比	46.8%	33.6%	11.5%	4.2%	3.9%
昨対比	-7%	0%	3%	0%	4%

☆コメント

難しい時代ですが、TPOに応じた挨拶ができるスキルを身につけていけるように指導して参ります。

